

質問者



植田 喜晴 議員

Q これからの町政の基本的な考えは

A 暮らしやすいと実感できる
ライフタウン

問 「暮らしやすいと実感できる地域」とは、高齢者が歩いて買物できる店があることで。その対策は。

答 白石町長

それぞれの地域のもっている特徴、特性、あるいは歴史的なものを含めた地域の具体的なまちづくりについてアンケート調査をしながらそれぞれの地域において暮らしやすさと、利便性もあわせて検討していきます。

答 再生マスタープラン見直し検討
白石町長

第3次総合計画の中でも再生プロジェクトとして位置づけしております。事業を検討するときに地域の住民で組織するまちづくり協議会等を発足させて地域の安全性を図ってゆくことが必要と考えます。

町営住宅の建て替えについても住宅再生プランの中で建て替えの方針は変わりません。平成十八年に住生活基本法の制定によりマスタープランを見直し、総合的な住宅政策を進めていきます。消化用具については自主防災組織で練習して、可能になれば考えますが現在のところは考えていません。

問 災害に強いまちづくりを

既成市街地（浜地域）の地域再生と老朽化した町営住宅の建て替えが必要で。計画は。地域住民による初期消火活動ができるように、住宅密集地や町営住宅内の消火栓にホースなど消化用具の配備を。

問 高齢者や障害のある人や子供が安心して外出できる環境づくり

道路路面の整備と歩道の確保・拡充が必要です。対策は。

答 十分精査し
今後とも推進
栗田副町長

安全で安心した生活をする上で道路整備を進めることは必要と考えます。今後も現状を見ながら危険箇所や緊急性の高い箇所や要望が多い舗装改修、歩道の整備についても十分精査しながら推進していきます。

問 高齢者、障害のある方が働ける環境づくり

作業所の設置と民間企業や町の関係先での雇用の促進と適切な賃金の確保が必要です。対策は。

答 働きやすい環境づくりを図る
栗田副町長

平成15年にシルバー人材センターを設置し、各種作業内容に応じた賃金体制のもとで高齢者が働きやすい環境づくりを図っています。又来春オープンする大型商業施設から雇用要請もあり高齢者の働ける場所の拡充を期待しています。

障害者の作業所については福祉センター内には小規模作業所ひまわりが平成19年に設置され、現在2名の実習生が作業にきています。今後もっと多く作業実習が出来るよう、規模や機能の充実を図ります。又NPO法人ひまわり会と連携協力しながら働きやすい環境づくりや就業支援雇用拡大に努めていきます。

問 温かい政治を

町の行財政改革で、身体が虚弱で外出がままならないとか、一人暮らし

で引きこもりがちな高齢者への政治の温かさが遠ざけられた。この人達に温かい政治の光を。

答 積極的に
取り組みます
栗田副町長

見守り推進員の方が地域の独居高齢者宅を訪問し、心身の変化や生活環境での問題があれば民生委員さんや在宅介護センターへ連絡し対処するようになっている。今後も実態把握に力を入れ、保健・福祉事業の積極的な取り組みを行います。

